

あい きょう しげ ゆき
愛敬重之 後援会
だより

2021
10月22日
No. 40 **67**

発行責任者 後援会会長
伊藤久志

愛敬重之
公式HP
<http://www.aikyo-kuwana.net/>



パラリンピアン伊藤選手が
市役所を訪問

日頃の議員活動ではご協力ありがとうございます。

三重県でも9月30日まで緊急事態宣言が発令されてい

ました。国内、県内の感染状況を踏まえ、「三重とこわ

か国体・とこわか国体」の中止が決定されました。この

大会を目指し、日々血のにじむような努力を続けてこら

れたアスリートが、全国にたくさんおられます。アスリートの皆さんを思う

と、心が痛み、やりきれない気持ちです。私自身としても、桑名市の実行委員

会の参与として、待望の大会が、目前まで迫っていただけに、残念の一言で

す。現在、桑名市でのコロナウイルス感染状況は落ち着きを取り戻しつつあり

ますが、「三重とこわか国体・とこわか国体」の中止決定は、やむを得ない判

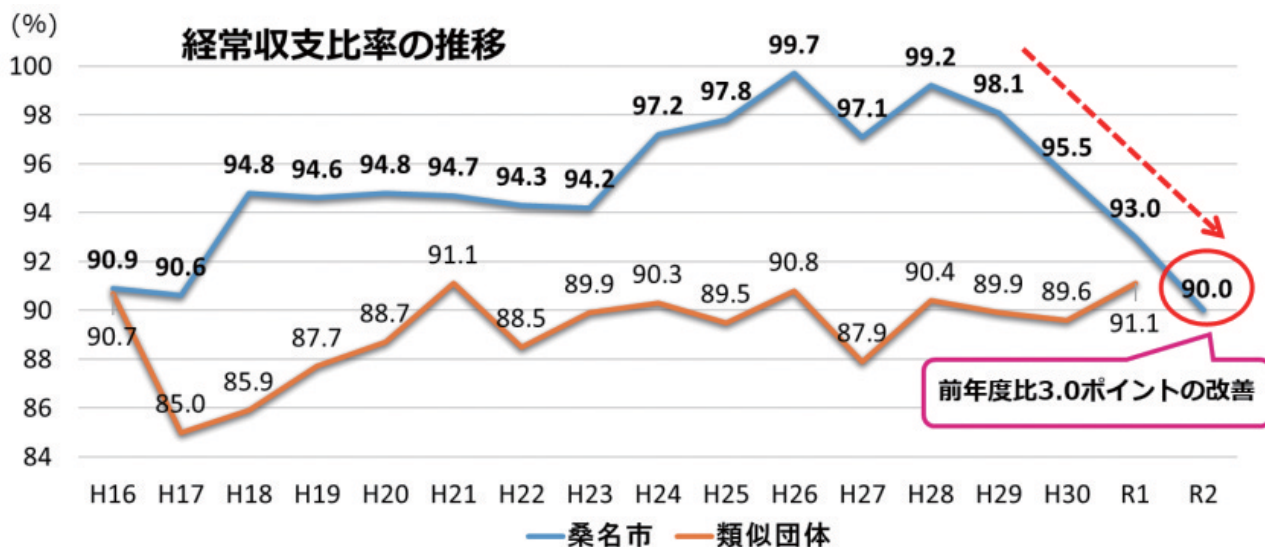
断であったと考えています。

今回の67号は桑名市の令和2年度の決算報告と近況報告をさせていただきます。

令和2年度 桑名市 決算報告 !!

9月定例会では毎年、決算発表があり審査をしています。令和2年度決算全体を見ると、歳入総額1,013億4,848万円余、歳出総額982億6,983万円余となり、差し引き30億7,864万円余の黒字決算となりました。令和2年度では、数度の補正予算により新型コロナウイルス感染症拡大に応じた事業を迅速に実施したため、主に特別定額給付金の実施で歳入総額は124.8%（前年度比）、歳出総額は124.9%（同）となり、ともに増加しています。

主な財政指標として、財政力指数は前年度よりも低下し0.844となりました。経常収支比率は90.0%となり、前年度と比べ3.0ポイント改善しています。改善の主な要因は、補助費や物件費などの減少で、経常的な一般財源などを充当した歳出額が抑えられました。さらに、地方消費税交付金や株式譲渡所得割交付金などの経常的な一般財源などの歳入額が増加したことに加え、減収補てん債特例分を借り入れたためです。これは平成26年度の99.7%から改善傾向で推移しており、合併し新市となった平成16年度以降で最もよい経常収支比率になりました。



議員活動報告です！

—「新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望」を提出—

9月3日、南澤議長とともに伊藤市長を訪問し「新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望書」を提出しました。
要望内容は以下のとおりです。

1. 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、飲食店に対する時短営業および酒類提供の自粛について、より一層の協力要請と併せて、新たな協力金の創設を国・県へ要望されたい。
2. 三重県（保健所）と連携し、自宅療養者を増加させないために宿泊療養施設の確保に努めるとともに自宅療養者の生命を守るため訪問診療・訪問看護への支援および酸素ステーションの設置についても検討されたい。また、妊娠中の感染は重症化しやすいことから妊婦専用病床の確保や妊婦の早産のリスクを考慮した入院の優先順位づけなど対策を検討されたい。
3. 新型コロナウイルス感染症に感染された自宅療養者などに対して生活物資を提供するなどの生活支援を検討されたい。
4. 児童・生徒の学習機会の確保に最大限努められたい。特に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策による臨時休校期間中の低学年の児童、自宅待機・自宅学習が困難な児童の対応について学校で学習を受け入れるなどの対応を検討されたい。
5. 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として保育の縮小および臨時休園を検討される場合にあっては、エッセンシャルワーカーやひとり親世帯などで仕事を休むことが困難な方の子どもが必要な保育を受けることができるよう対応を検討されたい。
6. 市民に不安をあたえ、混乱や誤解が生じないように、市民の代表者からなる市議会へ、感染状況の最新情報と市の対応、進捗状況を速やかに提供し情報共有をより強化されたい。

この緊急要望提出の後、第3回定例会会期中に補正予算対応がありました。その中で以下3事業費の上程があり、緊急性も高く、即日可決となりました。

- 新型コロナウイルス感染症自宅療養者訪問看護支援事業費（要望項目2）
- 新型コロナウイルス感染症自宅療養者生活支援事業費（要望項目3）
- PCR検体採取事業費



緊急要望を提出：左から愛敬副議長・南澤議長・伊藤市長

—生涯スポーツ関連—



ベアリングを確認する愛敬議員



試走中の伊藤選手（奥）と上與那原選手（手前）



必勝祈願

5月初め、パラリンピアの伊藤選手から連絡があり初めて車いす（レーサー）を拝見しました。伊藤選手からは「車いす競技者でベアリングにこだわる選手はまだ少ない」「ぜひ、NTNのベアリングを使用しパラリンピック大会でメダル獲得を目指したい」と言われました。大会まで時間がないなかNTN総合運動公園の400mトラックでテストを行ない伊藤選手、上與那原選手とも非常になめらかな走行で最高タイムをマークしてテストは成功しました。大会では、伊藤選手は突然のクラス変更となりT53クラス400mで自己ベストを更新しました。上與那原選手はT52クラス400m、1500m2種目で銅メダルを獲得しました。このようなチームに参加でき幸せでした。

以上